

機関番号：72622

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520426

研究課題名（和文） 抄物目録の完成

研究課題名（英文） List Production of *Shomono* (The Commentaries written by *Kana*)

研究代表者

柳田 征司 (YANAGIDA SEIJI)

財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：10036410

研究成果の概要（和文）：日本語は、いかなる原理でいかなる方向に動き来たり、今ある姿をしてここにあるのか。我々は、先学が明らかにして来た数多くの個別事象についての研究成果を前にしてその答えを求めて模索している。この状況を乗り越える道の一つは、日本語が大きく転換する中世の口語研究資料を発掘・整備し、これを深く読み込むことである。東部方言「ダ」対西部方言「ジャ」という定説を尊経閣文庫蔵『論語講義筆記』が覆したように、どのような資料が眠っているか知れないのである。本研究は、研究が遅れている抄物を発掘・整備し、その資料目録を作成して、日本語史研究の進展に資せんとしたものである。

研究成果の概要（英文）：What direction has the Japanese language taken under what principles before it evolved into the current system? We are searching for the answer using the results of past studies regarding various particular events. One way to do this is to uncover and deeply study colloquial materials from the Middle Ages, a major turning point for the language. As *Rongokogihikki* overturned the hypothesis that the eastern dialect's suffix "da" corresponds to the western dialect's "ja", there is no telling what other hidden materials there are. This study is aimed to help further knowledge of the history of the Japanese language by cataloging *syomono* (commentaries written by *Kana*).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：日本語史・抄物

1. 研究開始当初の背景

古代日本語が近代日本語に転換して行く中世日本語の口語研究資料としてキリシタン資料・狂言詞章とともに抄物がある。抄物は口語度において他の2資料に遅れをとるけれども、南北朝時代から江戸時代初期に亘る長い期間の資料が存すること、東国方言を窺

い知ることができる資料が存すること、整理されていない生の言語が記録されている面があること、そしてその伝存する量が膨大であることなどにおいて、先の2資料の欠を補って余りがある。しかしながら、現在までに学界が利用している抄物は限られたほんの一部のものにとどまっている。それは、伝存

する量があまりにも膨大であること、主要な抄物が容易には閲覧しにくい寺社や個人文庫等に所蔵されていることが少なくないこと、そして書誌学の訓練を行っている機関が少ないこと、などに起因すると考えられる。抄物の発掘・整備とその目録作成が急がれる所以である。

2. 研究の目的

筆者は、45年余の間、全国各地の寺社・文庫・図書館・蔵書家を尋ね、抄物の発掘調査を行い、5000点を越える抄物を現地調査して、ようやくその全容をとらえることができるようになったのではないかと考える。本研究は、伝存する抄物の目録を作成し、抄物ならびに抄物言語の研究、ひいては日本語研究の進展に資せんとするものである。この目録は、ひとり日本語学にとどまらず、日本文学・日本史・中国文学・日本思想史・教育史・医学史などの研究にも資するところが少なくないものと確信する。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために次のことを行う。

(1) 現地調査と複写物の作成

未調査の抄物と既調査であるが調査不十分な抄物を現地調査し、必要なものの複写物を作成する。

(2) 資料性の解明

抄者・成立時期・原典などが明らかでない抄物についてそれらを解明して、言語研究資料としての位置と価値を把握する。

(3) 目録の作成

資料に即して筆者が考え出した分類・配列案に従って目録を作成する。目録の完成を急ぐため、個々の抄物についての記述は簡略なものとする。

4. 研究成果

(1) 現地調査と複写物の作成

東北大学附属図書館・成田仏教図書館・順天堂大学図書館・国立公文書館内閣文庫・宮内庁書陵部・国立国会図書館・お茶の水図書館・建仁寺大中院・龍谷大学図書館・京都大学附属図書館・同文学研究科図書館・天理大学附属天理図書館・阪本龍門文庫・大阪府立中之島図書館等において抄物ならびに関連資料の調査を行い、必要な複写物を作成した。その他、宮城県立図書館・東京大学総合図書館・国学院大学図書館・岐阜県立図書館の抄物の複写物を入手した。

(2) 資料性の解明

個々の抄物についてその資料性の解明を行った中で顕著な成果を得たことのいくつかを挙げれば、次の通りである。

① 『中興禅林風月集抄』とその原典についての考察

先ず、仮名抄物『中興禅林風月集抄』に、惟高妙安(1480~1567)抄の2本の他に、抄者未詳のものが3種伝存することを明らかにした。次に原典『中興禅林風月集』が中国編述書であるのか日本編述書であるのかを明らかにする必要がある、諸伝本の調査を進め、2類4種12本を発掘・調査することができた。それらを比較検討した結果、詩集そのものは中国で編纂された可能性が高いけれども、漢文注はいずれも邦人の手になるらしいことが明らかになった。原典詩だけの短小の詩集がどのような形で本邦にもたらされたのかについては今後の課題として残された。この詩集は近年中国において注目されるようになってきているが、抄物も原典も日本に伝存するものしか知られていないため、中国における研究は我々の研究成果によって行われている。今回の我々の研究が契機となって中国における伝本の発見が望まれる。

② 万安英種(1591~1654)の抄物の検討

万安の抄物は断定の助動詞に「デヤ」をもちいており、その位置づけが問題とされて来た。万安の抄物を写本・版本を含めて根本から検討を加える必要がある、その整備を進めた。

③ 五山版『虚堂和尚語録』への書き入れ注についての考察

抄物の中に、原典版本を匡郭のところで切り抜き、大きな台紙に貼付し、そこに仮名抄を書き入れたものがいくつか伝存する。いわば書き入れ抄と成書としての抄物との中間に位置する。そのような例として、『虚堂和尚語録』があり、宮内庁書陵部とお茶の水図書館とに互いに密接な関係にある本が伝存する。この2本はともに宋版と誤認されて来たが、ともに五山版であることを明らかにした。合わせて2本の関係、抄物の中での位置について考察した。

④ 東京大学国語研究室蔵『蒙求抄』の素姓の解明

標記の抄物を精読し、足利学校第五世座主東井之好(生没年未詳、享祿極初年没)の抄であることを明らかにした。従来知ることのできていた足利学校で作成された抄物は、書き入れ抄が多く、成書としての抄物は堅い文語体のものであった。本抄は、口語度は高くはないけれども、俗語を多く交えた、活力のある言語資料として注目される。

⑤ 『和名集并異名製劑記』の諸版とその言語についての考察

特定の原典を持たぬ一種の抄物の中に一群の医学書が存する。抄物の影響を受けて作成されたもので、ゾ体の文体を用いる。その中で最も多くの版を重ねたものが『和名集并異名製劑記』で20種を越える版を調査することができた。これによって諸版とその言語の

の変容について考察を加えた。

(3) 目録の作成

① 分類・配列

抄物は、書物としての形態、対象とする原典、抄者の学統などに注目して、これを次のように類別・整理することができる。

甲類、特定の原典に対する注釈としての抄物

甲類第一種、成書としての抄物

ア、漢籍を対象とする抄物(経部・史部・子部・集部)

イ、仏書を対象とする抄物(関西系臨済宗・東国系曹洞宗、その他)

ウ、国書を対象とする抄物(禅僧漢詩文集・禅僧語録・他宗派僧撰述書・教育書・神道書・法令書・有職故実書・国文学書・天文曆教書)

甲類第二種、原典への書き入れ抄

ア、漢籍への書き入れ

イ、仏書への書き入れ

ウ、国書への書き入れ

乙類、特定の原典を持たぬ一種の抄物

乙類第一種、成書としての抄物

ア、詩文作成用書

イ、禅宗教義書

ウ、医学書

エ、神道教義書

オ、有職故実書・教訓書

カ、辞書・事典

乙類第二種、備忘記

丙類、抄物を利用した著作

丙類第一種、抄物を利用した江戸時代の注釈書

丙類第二種、抄物を利用した仮名草子

丙類第三種、その他

② 目録の記述

目録完成を急ぐため記述を簡略なものとするとし、原則として次の事項を記述するにとどめた。

書名・巻数・抄者(講者・聞書者)・書写(刊行)時期・冊数・所蔵者・図書番号
奥書・識語・刊記・特記事項

③ 目録作成

本研究は、主として、目録作成が終了していない甲類第一種イ・ウの目録作成に努めたが、その他の資料についても追加・補訂を行った。以下には各類について代表的なもの数点を挙げるにとどめざるを得ない。また、以下に記す、例えば「碧巖録抄」というのは『碧巖録』の抄物の意であって、この抄物の場合その中に抄者・成立を異にする約40種類の『碧巖録抄』が存する。そして、更にその中の一種である、例えば万安英種抄の『碧巖録抄』には3種の版が見つかっており、計35本を著録することができている。

③ノ1、甲類第一種イ(仏書)の目録作成
関西系臨済宗

碧巖録抄・臨済録抄・虚堂録抄・百丈清規抄・日用清規抄・六物図抄・四教儀抄・首楞嚴經抄・孟蘭盆經抄・正宗贊抄・施餓鬼抄ほか
東国系曹洞宗

無門関抄・人天眼目抄・禅林類聚抄・四部録抄・証道歌抄・大恵普覚禅師書抄・投子山妙続大師語録抄・自得禅師語録抄ほか

その他

『梵網經抄』『俱舍論聞書』『阿弥陀經抄』『無量寿經抄』『観音經抄』ほか

③ノ2、甲類第一種ウ(国書)の目録作成

禅僧漢詩文集

錦繡段抄・続錦繡段抄・花上集抄・中華若木詩抄・二十四孝七言詩抄・湯山千句抄・城西聯句抄・江東識廬三千句抄ほか

禅僧語録等

永平元禅師語録抄・大智禅師偈頌抄・伝法偈下語抄・禅公案謔語並代語抄・貫之梵鶴和尚代語抄・巨海代抄・天南代語抄ほか

他宗派書

秘蔵宝鑰聞書・御請来録私聞書・性霊集聞書・御遺告抄・三教指帰私記・以呂波聞書・王沢不渴鈔聞書・光明真言句義釈抄ほか
教育書

庭訓往来抄・実語教注・雑筆略注

神道書

日本書紀抄・中臣祓抄・麗気記聞書

法令書

十七条憲法注・令聞書・建武式目注・御成敗式目抄

有職故実書

江次第抄

国文学書

日本書紀歌注・伊勢物語惟清抄・源氏物語帚木注・徒然草寿命院抄・和漢朗詠集抄・太平記抄・謡抄・間狂言抄

天文曆数卜占書

宣明曆鈔・簠簋抄・八卦抄

③ノ3、乙類第一種の目録作成

追補の手を加えた。

ア、詩文作成用

『蕉窓夜話』『幼学詩句』『句寄語』『金玉和襟集』『芙蓉集』『策彦和尚筆記』『湖鏡集』『蠡測集』『継天筆語』『古事書』『雑抄』ほか

イ、禅宗教義書(密参録・門参等) 追補未了
ウ、医学書

『竹門文明口決』『月海雜録』『捷術大成印可集』『医学拔萃』『救急本草』『師語録』『百腹図説』『授蒙聖功方』『捷徑弁治集』ほか

エ、神道教義書

『祓八ヶ大事』『梵天帝釈委注』『参詣口決之大事』『神祇正宗秘要』『神道之祓祭文条々記』

『文意抄并諸神聞書』『休塵聞書』ほか

オ、有職故実・教訓書

『逆耳集』『恩地左近太郎聞書』

カ、辞書・事典

韻書・節用集の目録化は完了

類書・節用集以外の語書の追補未了
③ノ4、甲類第二種と丙類の目録作成
追補未了

(2)研究分担者

(3)連携研究者

(4)日本語史研究への活用

抄物を活用して日本語史の重要な一面を解明した成果を公刊した。『日本語の歴史1方言の東西対立』がそれで、現代方言における東西方言間に認められる対立、ハ行動詞の音便における促音便「買って」対ウ音便「買うて」、形容詞連用形の音便における原形「早く」対ウ音便「早(う)」、断定の助動詞「ダ」対「ジャ」の違い、がなぜ生じたのかを抄物の言語を手掛かりに説明した。引き続いて『日本語の歴史2意志・無意志』(近刊)を書いた。日本語の歴史を研究する上で抄物が極めて価値の高い資料であることを具体的に示し得たものとする。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

- ① 柳田征司、抄物目録稿一特定の原典を持たぬ一種の抄物1一、抄物の研究、査読無、22号、2011、pp. 1-39
- ② 柳田征司、『中興禅林風月集抄』とその原典、抄物の研究、査読無、21号、2011、pp. 1-23
- ③ 柳田征司、医書の抄物二、抄物の研究、査読無、20号、2011、pp. 1-102
- ④ 柳田征司、抄物目録稿(原典国書 錦繡段抄他)、抄物の研究、査読無、19号、2011、pp. 1-53
- ⑤ 柳田征司、『和名集并異名製剤記』の諸版とその変容、近代語研究、査読無、15集、2010、pp. 149-163
- ⑥ 柳田征司、医書の抄物一、抄物の研究、査読無、17号、2010、pp. 1-43
- ⑦ 柳田征司、抄物目録稿(仏書他一斑)、抄物の研究、査読無、16号、2009、pp. 1-51
- ⑧ 柳田征司、東京大学国語研究室蔵『蒙求抄』について、訓点語と訓点資料、査読有、121号、2008、pp. 60-84

[図書] (計1件)

- ① 柳田征司、日本語の歴史1、2010、204

6. 研究組織

(1)研究代表者

柳田 征司 (YANAGIDA SEIJI)
財団法人東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号：10036410